

天の声

ひらのまさとし
平野正俊

11月中旬沖縄から遙々静岡までやってきた視察グループの話によると、今年は沖縄に台風が来ないから珊瑚が大変だそうだ。台風が引き起こす激しい海水流は珊瑚の間に新鮮な水を流すのだが、それがないために死んでしまう珊瑚があるという。自然には来るべきものが来ないと生態系が崩れるということである。

1998年8月からの豪雨や相次ぐ台風によって、日本中が大被害を受けたことは今さらいうまでもない。私たちの農園でも豪雨による多くの土砂崩れと、風雨による5,000 m²もの棚の倒壊とそれによる果実の落下は大打撃であった。

キウイフルーツの収穫期は短期間に集中しており、その収穫労力は近隣の農業をしている人々が、パートさんとして支えられている。しかし、近隣の農家も大被害を受けているので他人の仕事に来るところではない。思わぬところに影響が拡大し、それを乗り切めるために労働力の確保に随分苦労させられたが、こうした課題は新たな協力者たちとの出会いにつながりプラスにもなった。

また、改めて自然の力や脅威を思い知らされた。文明が発達すると無意識のうちに自然を破壊するなど自然に対する認識が益々薄れてくる。人間が何でも作り出し、人類は自然を管理してやってるかのような誤解に陥りやすい。人間の体ですら自然そのものであることを忘れてしまっている。科学技術がいかに進化しようとも自然の力は偉大であり、それに対する畏敬の念を忘れてはならない。

人間が生きる上での重要な自然環境をおろそかにし、食いつぶしていることは、自ずと自然が「天の声」とともに怒るわけであるが、その影響が、自然に身近な農業に発生しやす

いとは、どういうことだろうか？。都市に住む人々よりも自然を愛し、自然の価値を評価し、自然に最も近い私達農業者がなぜ影響を受けなければならないのか。ちょっと間違っていないだろうか？。

台風被害を受けて、そうそうクヨクヨしても前に進むことはできないので、このような災害を逆に生かせないかと、外来者に災害現場を見ていただき、暴風雨により倒壊した棚や裂けて倒木した樹木、落下果実を拾い集めてみる。また不作のジャガイモ畑を掘ったりする機会を与える。しかし、それだけでジャガイモが穫れないとか、これは不適地であるとか、怒りだす人もいるから滑稽だ。

これを機に、環境教育につなげようと、体験学習農園では、台風被害地の現場を見ていただく環境フィールドワークを積極的に始め、なかなか好評である。

様々な年齢層や職種、団体、子供会の遠足、生涯教育プログラムにも取り入れてみた。そのようなフィールドワークで、筆者が非常勤講師を務める静岡大学農学物環境人間科学科の学生相手に、台風被害地を実際に見ての意識変化を調査させていただいた。一日を通じてのフィールドワークの中で、自然災害を直視するにとどまらず、人間とのかかわりについて重点を置き、「人間が生きていくために必要なこと・モノ」を入園する前と後に10ずつ掲げてもらい、フィールドワーク経験後の変化を覗いてみたかった。

別掲の調査集計表では、環境フィールドワークの前と後で学生が掲げる項目はほぼ同じように見える。

だが、人間が生きていくために必要なことへの視点には、2つのポイントで変化が認められる。1つは食料や水などの生産に何が必要かといった、日頃の生活空間では漠然としていることが、体験を通じより具体化していく点である。2つ目は人間自身の課題で、人間の意識や精神である。

1つ目で最も重要だと考えられている食料については、単に食料が必要だという視点から、それを生産するためには適度な太陽の光や、肥沃な土壌構造、そして自然（動植物）とバランスよく調和のとれた環境が必要であるとの理解に進んでいる。

2つ目の意識や精神については、人間が生きていくのに何が必要かという観点が、人間として「どう」生きていくかに置き換えられていき、そのための意識や精神の必要性と、人の接し方、すなわちコミュニケーション能力の割合が顕著に増えている。

これらの結果は、現状の課題にとどまらず、更には将来地球上に人類が生き永らえていく上での重要な課題まで再認識させるものと言えよう。

いま世界中で起きている異常気象は今さら改めて言うまでもないが、農業国であるニュージーランドは比較的自然環境が保たれている。しかし1998年夏季には高温と乾燥により南島を中心に羊が何万頭も死んだり、近海で魚が大量死するなど不可解な状況にある。毎年春休みに開催している国際農村ネットワーク主催のファームステイ体験プログラムでは、日本の青少年と共にそうした状況を目のあたりにした。

また代表的な農産物キウイフルーツは、冬季の低温不足により花が弱く98年産は結果

不良で、1999年は対日輸出もその確保に苦慮する見通しである。この影響はニュージーランドのキウイフルーツ産業ばかりでなく、実は日本のキウイフルーツ産業にとっても切実なものとなる。雌雄異株であるため受粉は必須であり、花粉は輸入に依存しつつある。これらは輸入量確保に苦慮、価格も高騰し手に入らないことすら考えられる。そして、当然そうした条件下での花粉は能力が低く、生産量と品質の低下にもつながり、キウイ生産農家は経営状況が悪化することが懸念される。

このような状況はすべての作型や農業形態に影響があり、農業においても自国のみが良ければという時代は過去のものになり、食料・環境という視点からは、すでに国境はなくなっている。人類にとっても国境がなくなる時代は目の前まで来ているような気がしてならない。

食料・農業・農村基本問題調査会答申にも掲げてある国際貢献の中においても、日本が兄貴ぶるのではなく、謙虚に地球という村に暮らす同じ人間としての、共生への力を発揮していくべきであろう。

「天の声」は農業者としてなすべき課題を知らしめる声であると受け止め、その責任を果たしていきたい。

（静岡県掛川市・農業）

環境フィールドワーク（人間が生きるために必要なもののベストテン）（50人）

順位	項目 入園前	ポイント	順位	項目 入園後	ポイント
1	食料	45	1	食料	36
2	水	31	2	水	25
2	家	31	3	友達	24
4	友達	29	3	目標・目的・夢・希望	24
5	衣服	27	5	家	21
6	睡眠	19	6	太陽	19
7	家族	14	7	自然	18
7	お金	14	8	遊び・空間・心・余暇	17
9	人間（他人）	10	9	衣服	16
9	愛情・思いやり・笑顔	10	10	愛情・思いやり・笑顔	15
9	自転車・バイク・自転車等	10	10	家族	15
9	音楽・楽器	10	10	お金	15
9	目標・目的・夢・希望	10	13	睡眠	14
14	火	9	13	土（畑）	14
14	空気	9	15	空気	13
14	自然	9	16	動物	10
17	めがね	8	17	人と接すること	9
17	遊び・空間・心・余暇	8	18	果実	8
19	フロ	7	19	人間（他人）	7
20	異性	6	19	火	7
	元気（健康・体力・気力）	5	19	植物	7
	太陽	5	19	音楽・楽器	7
	布団	5	19	生きがい・心の支え	7
	学ぶ（教育）・知識	5	19	スポーツ	7
	酒	5		森	6
	恋人	4		学ぶ（教育）・知識	6
	法律	4		元気（健康・体力・気力）	5
	薬・医者・医療	4		フロ	5
	植物	4		酒	5
	テレビ・ビデオ	4		異性	4
	趣味	4		能力（努力）	4
	スポーツ	4		独創性	4
	仕事	4		恋人	3
	森	3		素敵な環境	3
	動物	3		海	3
	本	3		科学技術	3
	クツ	3		知恵（思考）	3
	言葉	3		好奇心	3
	タバコ	3		言葉	3
	紙・筆記用具	3		時間	3
	飲み物	2		趣味	3
	自分	2		仕事	3
	礼儀（道徳）	2		飲み物	2
	素敵な環境	2		自分	2
	海	2		地球	2
	生物	2		光	2
	大気・オゾン層	2		山	2
	電気	2		生物	2
	燃料	2		大気・オゾン層	2
	電話	2		電気	2
	冷暖房機器	2		パソコン	2
	洗濯機	2		情報	2
	化粧品	2		プライド（エゴ）	2
	火をつけるもの	2		※以下各1点	
	知恵（思考）	2		協力・社会・重力・天気・生命	1
	情報	2		季節・緑色・街・めがね・電話	
	生きがい・心の支え	2		道具・火をつけるもの・ナイフ	
	プライド（エゴ）	2		クツ・布団・本・共感・若さ	
	※以下各1点			芸術・タバコ・ガム	
	果実・人と接すること	1			
	能力（努力）・山・土（畑）				
	天然資源・天気・科学技術				
	パソコン・道具・好奇心				
	ナイフ・若さ・ガム・コーヒー				